



ふきのとう

第28号

【発行】
 社会福祉法人
 秋田県社会福祉事業団

〒010-1412
 秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
 TEL 018-889-8360 FAX 018-889-8361
 HP <http://www.fukinoto.or.jp>
 e-mail mail@fukinoto.or.jp

研修風景



～平成28年6月6～7日開催 法人研修「人事考課研修」～

理事長あいさつ



社会福祉法人
 秋田県社会福祉事業団
 理事長 熊谷 淳

今年四月に県庁を退職し、事業団の仲間入りをしました。福祉関係の仕事には、多少携わった経験があったことから、土地勘があるつもりだったのですが、相次いで実施されている制度改革になかなか追いつくことができず、毎日「六十の手習い」に追われています。折しも、今年四月から事業団は、新しいステップを歩き始めることができました。

古い歴史を持つ清水水園と阿桜園は、県からバトンタッチを受け、自前の施設として運営を始め、将来の建て替えなど重い責任を担うことになりました。

また、ここ数年地元の方々とは構想を練ってきた地域生活支援センターが、由利本荘市にオープン運びとなりました。就学前の発達支援や就学児を対象とした放課後等デイサービス、在宅の重い障害を持った方々への生活支援など、この地域には従来なかったサービスを提供し、徐々に利用する方が増えてきております。事業団にとっ

ては、初めて自腹で土地と建物を整備した施設であり、これまでコロナーの運営など様々な協力をいただいた地域に「恩返し」することができました。

更に、「次の自腹の一施設となる予定の身体障害者更生訓練センターについて、県内唯一の施設入所しながらの機能訓練を引き続き提供するだけでなく、多くの方々にとって利用しやすく、楽しめるような施設づくりを目指し、現在センター職員と知恵を出し合いながら検討を進めています。

一方、制度発足以来の抜本的な見直しが求められている社会福祉法人の経営組織等については、これまで以上に地域の方々からのニーズに応え、信頼が得られるよう、来年四月からの実施に向け改革を進めてまいります。

五十歳余の事業団の良き伝統を受け継ぎながら、時代の変化にいち早く対応しバージョンアップできるように、微力を尽くしたいと思っております。

平成二十八年法人研修の取組み

多様化する福祉ニーズに的確に対応する人材を育成するために、年間実施計画を基に法人研修を開催しています。主な取組として個別支援計画の作成技術の向上を図る「ケアマネジメント研修」や、強度行動障害に係る支援技術の研修、各施設における取組みを発表する実践発表会等を開催する予定です。

さらに、職員資質と支援技術の向上を図るため、法人外の専門機関等が主催する研修への積極的な参加を計画、実施しています。

また、秋田県から委託を受けた「強度行動障害支援者養成研修」及び「障害者虐待防止・権利擁護研修」を開催するにあたり、国が実施する指導者養成研修への職員を派遣し、専門的知識を備えた職員の養成にも取り組むこととしています。



研修報告①

ケアマネジメント研修



七月一日にケアマネジメント研修を開催し、相談支援専門員や、サービス管理責任者等三十二名が受講しました。本研修は、職員提案を契機に企画し、講師として「NPO法人かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク」

の富岡様、小川様をお招きし実施しました。研修の講義・演習では、ケアマネジメントの目的やストレングスの視点とリフレミングについて学び、参加した職員からは、日頃の業務の振り返りとともに、アセスメントの見直しや職場での伝達研修について意見が述べられました。



研修報告②

強度行動障害支援者養成研修



この研修は、自傷、他害行為など危険を伴う行動を頻回に示すことにより、日常生活に困難が生じている、いわゆる強度行動障害を有する方に対し、適切な支援を行う職員の人材育成を目的に秋田県から委託を受けて、基礎及び実践研修を実施しています。

昨年は、基礎研修に一二六名、実践研修に一一七名が参加し、今年度も県内各施設から一二〇名を超える方々が受講します。内容は国が実施する研修に準じていますが、グループワーク等の演習や医療現場からの情報提供、施設や地域での実践報告など県内の実情を織り交ぜたカリキュラムとなっています。



平成27年度 決算・事業報告

平成二十七年 事業報告概況

(一) 指定管理への対応

秋田県、横手市及び湯沢雄勝広域市町村圏組合の各指定管理施設については、関係機関と連携を図りながら適正な運営に努めました。また、秋田県の指定管理施設については、第三期（平成二十八年度～三十二年度）指定管理者として指定を受けました。

(二) 県有施設の対応

平成二十七年まで無償貸付を受けていた施設のうち、高清水園、阿桜園については平成二十八年度から譲与を受け、その他の施設については無償貸付を継続することに決定しました。

(三) 五カ年経営改善計画への取り組み

自立経営の確立に向け今後五年間の事業団経営の指針となる新たな五カ年経営計画（平成二十八年度～平成三十二年度）を策定しました。

(四) サービス向上への取組

強度行動障害「支援の手引き」を作成したほか、強度行動障害に対する「支援アドバイザー」を配置し、職員への研修や具体的支援方法を検証するなどサービスの向上に努めました。

(五) 自主事業の取り組み

平成二十八年度四月開設した「由利本荘地域生活支援センター」の事業開始のため整備を行いました。

(六) 老人福祉総合エリアの利用促進

北部、中央、南部三エリアが協同して県内外への営業活動を行うとともに、各地域での広報活動を展開し利用者の増加に努めました。

(七) 人材育成

研修実施計画に基づき、外部研修に積極的な参加を促しました。また、県から「障害者虐待防止・権利擁護研修」及び「強度行動障害支援者養成研修」を受託し、人材育成と職員の資質向上を図りました。

(八) 職員採用

福祉職十名、専門職（看護師・栄養士）二名を平成二十八年度四月一日付で採用しました。

(九) 社会貢献

福島県相双地域等への介護職員応援事業に登録し、特別養護老人ホームへ一名の職員を一年間派遣しました。障害者支援施設四施設では、各地域のニーズを踏まえ、障害者の社会活動への参加、余暇活動支援など公益的活動を企画実施しました。

貸借対照表

平成28年 3月31日現在

(単位：円)

	資産の部			負債の部		
	当年度末	前年度末	増減	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,482,938,816			流動負債	342,014,253	
固定資産	3,493,005,236			固定負債	667,490,765	
				負債の部合計	1,009,505,018	
				純資産の部		
基本財産	70,924,951			基本金	10,000,000	
				元入金		
				国庫補助金等特別積立金	72,154,947	
				その他の積立金	1,973,594,700	
その他の固定資産	3,422,080,285			次期繰越活動収支差額	1,910,689,387	
				(内当期活動収支差額)	(560,271,816)	
資産の部合計	4,975,944,052			純資産の部合計	3,966,439,034	
				負債及び純資産の部合計	4,975,944,052	

※平成27年度から新社会福祉法人会計基準へ移行し、従来の基準と評価方法・財務諸表の表示区分が異なる場合があるため、前年度数値の記載はしていません。

資金収支計算書

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日 (単位：円)

勘定科目	決算
事業活動による収支	
事業活動収入計	4,715,524,605
事業活動支出計	4,078,662,982
事業活動資金収支差額	636,861,623
施設整備等による収支	
施設整備等収入計	95,330,000
施設整備等支出計	559,621,868
施設整備等資金収支差額	△464,291,868
その他の活動による収支	
その他の活動収入計	520,611,615
その他の活動支出計	554,806,979
その他の活動資金収支差額	△34,195,364
予備費支出	
当期資金収支差額合計	138,374,391
前期末支払資金残高	1,105,579,114
当期末支払資金残高	1,243,953,505

事業活動収支計算書

(自)平成27年4月1日 (至)平成28年3月31日 (単位：円)

勘定科目	決算
サービス活動増減の部	
サービス活動収益計	4,699,479,707
サービス活動費用計	4,247,978,422
サービス活動増減差額	451,501,285
サービス活動外増減の部	
サービス活動外収益計	16,120,894
サービス活動外費用計	301,424
サービス活動外増減差額	15,819,470
経常収支差額	467,320,755
特別増減の部	
特別収益計	95,330,000
特別費用計	935,939
特別増減差額	94,394,061
税引前当期活動増減差額	561,714,816
法人税、住民税及び事業税	1,443,000
法人税等調整額	
当期活動増減差額	560,271,816
繰越活動増減差額の部	
前期繰越活動増減差額	1,342,336,112
当期末繰越活動増減差額	1,902,607,928
基本金取崩額	
その他の積立金取崩額	416,180,455
その他の積立金積立額	408,098,996
次期繰越活動増減差額	1,910,689,387

事業報告・決算の詳細については、当事業団ホームページの「事業報告・決算」ボタンからアクセスしていただくとご覧になることができます。

平成28年度 新規採用職員紹介

新規採用職員のみなさんに聞きました!

勤務しての感想と今後の抱負

	<p>秋田県南部老人福祉総合工リア 主事 近野 瑞穂 養護老人ホーム</p>		<p>秋田県心身障害者コロニー 主事 佐藤 彩夏 白光支援課</p>
	<p>清水水園 管理課 看護師 佐藤 伸太郎</p>		<p>阿桜園 主事 菅原 佳澄 支援課</p>
	<p>秋田県心身障害者コロニー 管理課 栄養士 富樫 泰佳</p>		<p>阿桜園 支援課 支援課</p>
	<p>秋田県心身障害者コロニー 主事 佐藤 康広 銀杏支援課</p>		<p>やまばと園 主事 高橋 生子 支援課</p>
	<p>秋田県心身障害者コロニー 主事 池田 夏実 銀杏支援課</p>		<p>阿桜園 主事 奥山 春香 支援課</p>

温かく穏やかな職場の雰囲気にも癒されます。また、皆さんが熱心かつ丁寧にご指導をしてくださることに大変感謝しています。期待に応えられるようにパワー全開で頑張ります！

四月から清水水園に勤めております。施設は初めてであり頭を悩ませることも多いですが、よりよいサービスを提供できるようにしていきたいと考えております。

入職して早や六か月、目まぐるしく日々が過ぎ去っています。検食に行くといつも給食ありがとうと声をかけて下さる利用者様がいいます。食事に対する楽しみに応えるためにも、創意工夫を凝らした給食づくりに励みます。

四月より、秋田県心身障害者コロニー銀杏支援課に配属となりました。課長をはじめ諸先輩方の助けもあり、分からないながらも業務に励んでいる毎日です。より良い支援が出来るよう頑張りたいと思います。

新しい環境下に慣れず変化に戸惑う事はありますが、周囲の方の助言や優しさに触れ何度も勇気付けられました。日々の支援の中で、利用者の方々とより良い関係を築きながら自分出来る事を一生懸命取り組んでいきます。「まごころ」のある支援を胸に、今後ともよろしく願っています。

これまで勤務してきて、段々と利用者さんから話しかけてもらえるようになり、嬉しく感じる場面が増えてきています。今後は、介護技術等自身のスキルを高めて、利用者さんがより安心して暮らせるように努めていきたいです。

阿桜園では、毎日新たな経験や発見があり戸惑いながらも成長させてもらっていると感じています。また先輩職員の方々からは温かくご指導頂き感謝しています。今後は、皆様から頼られる職員になれるようがんばります。

最初はとても緊張していましたが、利用者の皆さんから話しかけていただき、直ぐに打ち解けることが出来ました。今後も、利用者の皆さんが楽しく園の生活が送れる様に支援をさせて頂きたいと思えます。

阿桜園に勤務して六カ月が経ち、毎日が勉強の日々を過ごしています。まだまだ出来ない事も多く戸惑う場面もありますが、利用者さんと関わりながら楽しく過ごしています。今後も笑顔で支援していきたいと思えます。

初めての福祉の現場で戸惑うこと、上手くできないことも多いですが、利用者の皆さんと接する中でやりがいも感じています。今後も利用者の皆さんが楽しく安心できるように、日々生活のサポートをして参ります。

施設紹介

由利本荘地域生活支援センター

この度、由利本荘市二番堰に事業団初の建設施設「由利本荘地域生活支援センター」を開設し、四月十一日より運営しております。これまでの「地域生活支援センターみずばやし」は由利本荘地域生活支援センターへ統合され、「由利本荘地域生活支援センター水林事業所」として新たなスタートを切りました。



支援センター外観

由利本荘地域生活支援センターでは生活介護事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業を提供している他、由利本荘市障がい者基幹相談支援センター・相談支援事業所、由利本荘・にかほ圏域障害者就業・生活支援センターもセンター内に移転し、地域で暮らす障がい児者の方々が様々な福祉サービスのコーディネートを受けながら、安心して生活を送っていただける支援体制を目指しております。生活介護事業は、創作・作業・趣味活動や食事・入浴サービスの提供を行っています。特に七月からは、入浴サービスを必要としている方の利用が増えてきております。放課後等デイサービ



児童と生活介護利用者の交流

ス事業は、特別支援学校の他、市内の特別支援学級児童生徒の利用希望も多く、様々な活動を通してながら楽しく過ごせる場を提供し、個々の能力の向上を支援しております。

由利本荘地域生活支援センター水林事業所では、宿泊型自立訓練事業、自立訓練（生活訓練）事業、就労継続支援B型事業、指定共同生活援助（グループホーム）を運営しております。宿泊型自立訓練及び自立訓練（生活訓練）では四月に新しい仲間を迎え、一人ひとりの目標を大切にしながら取り組んでおります。また、グループホームは当センターの隣に初めて法人所有のグループホームを建設し、十棟から十四棟になり、入居者も四十八名から六十五名に増えました。今後も、入居者一人ひとりが安心して暮らすことができる地域生活支援に取り組んでいきます。



ザリガミとリ



支援センターグループホーム

当センターは、地域に根ざした視点で一人ひとりの思いに耳を傾けながら、ご家族の皆様や関係機関等と連携し、求められる、選ばれる施設になれるよう職員一同取り組んで参りますので、今後とも皆様の一層のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



レポート

第58回手をつなぐ育成会秋田県大会

由利本荘・にかほ大会

八月二十八日（日）由利本荘市文化交流館「カダーレ」を会場に行われた同大会では、由利本荘地域が開催地であったこともあり、当数参加しました。

大会宣言では、当法人設置のグループホームを利用されている大槻幸治さんが本人代表として高らかに行いました。職員では、由利本荘地域生活支援センター所長高橋ひろみ氏による「安心と豊かな生活をまごころで」と題した講演を行い、またシンポジウム「一人ひとりの個性にあった支援を充実させよう」では、由利本荘市障がい者基幹相談支援センター相談支援専門員の和田光子氏、三浦智幸氏がシンポジストとして参加し、大会を盛り上げました。



新施設紹介

放課後等デイサービス事業所「和く話く」

高清水園では、平成二十八年九月一日に敷地内の旧作業棟を一部改修し、放課後等デイサービス事業所「和く話く（わくわく）」を開設しました。

特別支援学級、支援学校に学ぶ知的障害及び発達障害のある子どもたちの教育や支援の一環として、児童・生徒の放課後や長期休業期間の活動の場として、遊び（創作活動等）や運動などを通して、日常生活活動の習得や生活能力向上の為にサポートを提供します。職員が飾り付けをした手作り感のあるあたたかい雰囲気と「檜のフロア」や「スタンドガラス風の窓」等でゆったり、リラックステイムが感じられるよう工夫を凝らしています。

ご家族の皆さんに安心していただけるよう、心をこめてサポートさせていただきます。



J A全農あきた共催「お米の品評会」

平成二十八年八月九日、JA全農あきた様の協力のもと、事業団運営施設の栄養士七名の方を対象に「お米の品評会」を実施しました。お米の専門家であるJAの方々から、それぞれの品種の特徴や無洗米のメリット・デメリットについて講義いただいた後、JAで扱っている四品種について試食しました。特に新種の「秋のきらめき」「つぶぞろい」については、味の評価がどちらも高く品質の高さがうかがえました。これまで、各施設の栄養士さんが集まる機会も少なく、今回一同に会し、意見交換ができたことは貴重な機会となりました。



表彰

○秋田県知事表彰

秋田県北部老人福祉総合エリア

課長 佐々木 長人

秋田県南部老人福祉総合エリア

主任技師 守屋 恵子

高清水園

課長 作佐部 真理

課長補佐 澤石 勉

秋田県心身障害者コロニー

課長補佐 仲川 章胤

阿桜園

園長 高橋 イク子

課長 斉藤 礼彦

課長 阿部 由美子

総括技師 成田 竹美

秋田県点字図書館

館長 佐々木 薫

事務局長 木村 盛郎

○平成二十八年全国社会福祉事業団協議会 永年勤続者表彰

○平成二十八年秋田県社会福祉協議会 会長表彰

秋田県南部老人福祉総合エリア

主任 田畑 良江

高清水園

主任 宮田 雅恵

秋田県心身障害者コロニー

主任 鷹島 征彦

主任 後藤 孝幸

由利本荘地域生活支援センター

主任 野原 博幸

阿桜園

主任 小原 辰矢

主任 鈴木 朋恵

やまばと園

主任 鈴木 宏郎

秋田県身体障害者更生訓練センター

主任 三浦 啓

事務局 高橋 徹

受章おめでとうございます。